



2014年2月27日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き上げについて

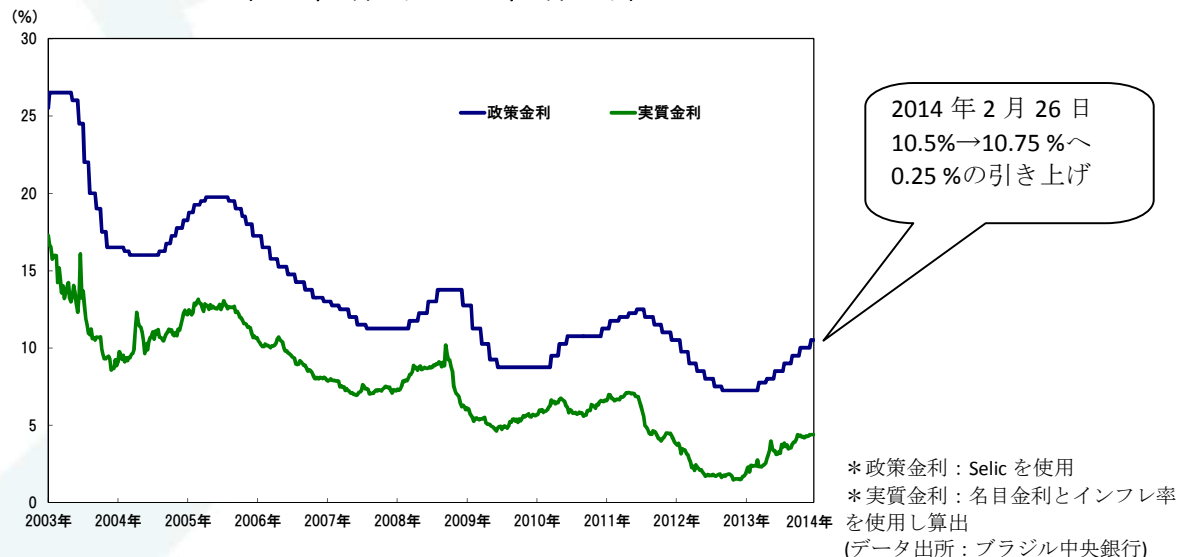
ブラジル中央銀行は、現地2014年2月25日および26日にCOPOM（定例金融政策委員会）を開催し、Selic（政策金利）を10.5%から10.75%に引き上げることを全会一致で決定しました。これで、利上げは、昨年から8会合連続となり、利上げ幅の合計は3.50%（350ベースポイント）となりました。利上げ幅がこれまでの0.5%から0.25%に縮小されたことで、ブラジルの利上げ局面が終了に近づいていると市場では見られています。

今回のCOPOMが発表した声明では、「2013年4月の会合で始まった政策金利の調整を継続し、政策金利をSelic レートを0.25%引き上げ、年率10.75%とすることを決定した。」とのことで、リセッション（景気後退）入りが危惧されるブラジル経済への悪影響を回避するために、金融引き締めペースを鈍化させた模様です。

2014年2月7日発表の1月拡大消費者物価指数（IPCA）が前年同月比5.59%と前回の5.91%から減速を示しました。また、20日にマンテガ財務相が2014年度予算における約180億ドル規模の歳出凍結を発表し、ブラジル政府が歳出は抑えられているとの安心感を金融市場に与えようと努める姿勢を示しました。ことから財政の健全化により積極的な利上げの必要性が中期的には無くなり、成長期待の落ち込みを抑制する狙いが伺われます。

市場では今回25ベースポイント引き上げられるとの事前予想が占めていたこともあり、相場には既に織り込み済みでした。そのことから金融市場への影響は限定的と見込まれ、27日早朝の東京時間の為替市場は比較的落ち着いた推移となっております。

＜ブラジル政策金利と実質金利の推移＞
(2003年2月1日～2014年2月26日)



本資料は、BNPパリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解等を提供することを目的として、上記の時点で作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。